

第12回 みどりのまちづくり賞 (大阪ランドスケープ賞2023)

OSAKA LANDSCAPE AWARD 2023

大阪都市公園協議会/公益社団法人日本都市計画学会関西支部 公益社団法人日本造園学会関西支部/公益社団法人都市住宅学会関西支部 一般財団法人日本造園修景協会阪奈和支部/一般社団法人日本造園建設業協会大阪府支部 一般社団法人日本造園組合連合会大阪府支部/阪神造園建設業協同組合 一般社団法人大阪造園業協会/一般社団法人大阪市造園業協会 公益社団法人 土木学会関西支部/一般社団法人 公園管理運営士会西日本支部 都市環境デザイン会議関西ブロック





















〒540-0008 大阪市中央区大手前3丁目2-12 大阪府 都市整備部 公園課 企画推進グループ内 電話:06-6941-0351 (内線2984) FAX:06-6944-6796

主 催

大 阪 府 公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会 一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会関西支部 みどりのまちづくり賞は、「みどりの風を感じる大都市・大阪」を推進する大阪府、「自然と人間との 共生」を掲げる公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会、並びに、「みどり豊かなランドスケー プデザインとマネージメント」を目指す一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会関西支部 の3者が共催で実施しています。

かけがえのないみどりを守り、増やし、豊かな環境を後世に残し、魅力的なまちづくりを進めるためには、駅前や企業の敷地、公共施設の周辺などのセミパブリック空間をまち並みと調和した花や緑あふれる美しい景観として創造し、さらにそれらを実現するために取り組まれている多くの人々が笑顔でつながることが大切です。

本賞では、みどりのまちづくりに貢献する「まちが美しくなるみどりづくり」・「まちが笑顔になるみどりづくり」に取り組まれた方々を表彰し、みどりへの理解が進み、美しい大阪のまちづくりに寄与できますことを念願しています。

総評



審査委員長 増田 昇

本年は、ランドスケープデザイン部門は26作品と量的にも質的にも非常に充実した内容であり、マネジメント部門は6件に留まったものの同じく充実した内容でありました。

1次審査では、デザイン部門は11作品、マネジメント部門は4件を2次審査の対象として選出し、現地審査を通じて最終審査を実施しました。

デザイン部門の受賞作品を見ると、大阪府知事賞の「日本生命淀屋橋ビル」は、船場の オフィス街に隣接する東館からプロムナードが延長する形で整備され、緑を基調とした豊 かなランドスケープが形成されるとともに、地下鉄に繋がるサンクンガーデンではその外 壁デザインと上部に展開する地上部の並木が一体となり、街との新たな関係性が創出され ています。花博記念協会会長賞の「1000RE SCENES」は、千里中央公園の再整備計画とし て旧公園管理事務所をリノベーションし、カフェとミニショップ、コミュニティスペースを 整備したもので、周辺の既存樹木をリファインし、人々の活動の軌跡や記憶が大切に継承さ れるばかりでなく地域とともに成長することが期待されるランドスケープが展開されてい ます。CLA関西支部長賞の「THE Villages」は大阪を代表する浜寺の地歴に配慮し、約 1,000坪の広大な敷地で庭を継承させたいとのオーナーの思いと浜寺公園の延長という立 地を十分に反映させた貸別荘のような雰囲気を持った街に開けた新たなランドスケープが 展開されています。審査委員長特別賞の「クボタグローバル技術研究所」のランドスケー プは、科学技術とデザインを融合させたイノベーティブで挑戦的なランドスケープが新た に創造され、奨励賞の「大阪国際中学校高等学校」は地域のシンボルである大枝公園との 連続性を強く意識するとともに学びの場として緑とともに成熟するランドスケープの創出 が意図されています。

マネジメント部門の大阪府知事賞の「大利町自治会」は美しいまちづくり活動の一環として、地域の中央に位置する大利公園と地域のシンボルである大利神社に繋がる「ふれあいの散歩道」の花壇の管理運営を地域として長らく継続してきたものであり、「地域力」が表出された生きた風景が展開されています。「morineki(大東市北条)」は開発そのものが新たな公民連携事業によって実現されたものであり、マネジメント部門の評価の枠組みを超えるものとして審査委員長特別賞とするとともに、「花さかばあさん」は長年お一人の力によってごみの不法投棄場を四季折々の花が楽しめる風景へと転換させたものであり奨励賞としました。

本賞が確実に大阪に定着しつつあることが実感されるとともに、持続可能なランドスケープを創出するためには、地域の地歴とともに人々の記憶や活動の軌跡を継承することが重要性である一方、新たな整備手法の導入や街との新たな関係性の構築、科学技術とデザインとの融合といったイノベーションやチャレンジも不可欠であると考えます。

日本生命淀屋橋ビル

所在地 大阪市中央区

事業主 日本生命保険相互会社、株式会社大林組

設計者 株式会社日建設計

株式会社大林組大阪本店一級建築士事務所

施工者 株式会社大林組

江戸時代の豪商・淀屋が架橋した「淀屋の橋」は、幾度かの架け替えを経ながら現在の姿となり、大阪のキタとミナミをつなぐ橋として大阪の発展を支えてきた。

この淀屋橋のほど近くに計画されたものが本作品である。総合設計制度による公開空地が敷地三面に設けられ、特に敷地の東側には豊かな緑が配置されている。この緑は南側街区の桂並木と連続しており、舗装や植栽花壇も統一的にデザインされ、二つの街区をつないだ緑豊かなプロムナードが形成されている。敷地の北側・南側の常緑・落葉を織り交ぜた植栽は、都市の中にあって季節の移ろいを感じさせてくれる。地上まで吹き抜けとなったサンクンガーデンは、花崗岩石張りの建築物の足元と鉄平石小端積みの壁面が自然の風合いを醸し出しつつ、外構のプロムナードとゆるやかにつながることで、大阪都心の業務エリアにおける貴重なパブリック空間が一体となって形成されている。またサンクンガーデンは、大阪メトロ・京阪電鉄淀屋橋駅と直結し、駅から街へと人の動きをつなぐ機能を有している。古くから街をつなぐ役割を果たしてきた淀屋橋。そのすぐ傍に街、人、緑の新たなつながりを創出する空間が生まれたことを評価したい。

講評:大阪公立大学工学部都市学科講師 高木 悠里





ランドスケープデザイン部門特別常

クボタ グローバル技術研究所

本技術研究所のランドスケープは、「食料・水・環境」に結びつくグローバル企業としての企業理念を表出するものであり、その中心となるレインガーデンはパッシブな環境技術をグリーンインフラとして単に視覚化するだけでなくランドアートとしての意味も付与している。また、レインガーデンは土壌の保水、浸透により、埋立地といった厳しい環境下でクロマツの良好な植栽育成基盤を形成し、初期の草地群落から低管理で海浜のクロマツ林の再生へと繋げることも意図されている。自然科学としての理論構成や技術面とアートとしてのデザイン面を融合させたイノベーティブな作品であることから、従来の評価の枠組みを超えるものとして、審査委員長特別賞とした。

講評:大阪府立大学名誉教授 農学博士 増田昇

所在地 堺市堺区匠町

事業主 株式会社クボタ

設計者 株式会社大林組一級建築士事務所

株式会社E-DESIGN

施工者 株式会社大林組



2

1000RE SCENES

所在地 豊中市新千里東町

事業主 千里中央公園パートナーズ

エイチ・ツー・オーリテイリング株式会社

株式会社ローソン

| 西日本電信電話株式会社関西支社

設計者 株式会社乃村工藝社、株式会社MuFF

施工者 株式会社乃村工藝社



高度経済成長期、千里ニュータウンの開発とともに産声を上げた千里中央公園。

半世紀余を経て、樹々は鬱蒼とし、人々のライフタイルも変わり、公園の 再整備はニュータウン再生の鍵といってよい重要な課題になっている。

暗く茂りすぎた林、老朽化した建物をどうしたらよいのか。安易にクリアランスすれば、そこに積み重ねられ育まれてきた大切な命の営み、記憶のバトンが断たれてしまう。この難題に、多彩なプロフェッショナルが協働して丁寧に向き合い、地域住民とともに、日常の風景を豊かに紡ぐ、再整備のあり姿を示したのが、「1000RE SCENES」だ。

文字通り「千里のくらしを彩る千の景色を公園利用者や地域の方々とつくりたい」との想いが込められている。イタリアンカフェやミニショップやコミュニティスペースとして、開放的にリノベーションされた公園事務所や倉庫と、その周囲を取り巻く樹林は、既存樹を可能な限り活かしながら、四季折々の風景を楽しめる在来種を加えて風通しよく整えられている。建物の西側で、百日紅の林・石庭に面して設けられたデッキ席など、さまざまなシーンを包み込む、細部まで心配られ変化に富んだ空間が心地よい。高経年のニュータウンで人と自然の関係を再構築し、ウェルビーイングを支えるランドスケープデザインとして高く評価できる。

講評:大阪ガスネットワーク㈱エネルギー・文化研究所 特任研究員 弘本 由香里



The Villages

所在地 高石市羽衣

事業主 株式会社今西組、西日本電信電話株式会社関西支社

設計者 積水ハウス株式会社

施工者 積水ハウス株式会社、積水ハウス建設関西株式会社 グリーンクラフト株式会社、杉田造園株式会社



時を遡ること明治6年(1873年)、白砂青松の景勝地に開設された 浜寺公園の周辺一帯は、その後大正から昭和にかけて、公園の賑わい・交通アクセスの向上と連動して別荘地、高級住宅地として発展した。松をはじめとする庭木が配された広大な屋敷地が連なっていた 名残を留める閑静な住宅地の一角が、この賃貸共同住宅の立地である。当地で4代に渡り住み継がれた屋敷の遺産である景石と庭木(マッ・クスノキ)を継承・活用し、ゆったりとした敷地のポテンシャルが最大限に引き出されている。アプローチ、中庭、ペデストリアンデッキからなる共用空間は、見守りや防災等の重要機能をさりげなく内包し、子供から高齢者まで、住民が思い思いに楽しむことのできる快適で居心地の良い環境となっている。

住戸の私的空間を保持しつつ、質の高い共用空間で全体をつなぐことで、ゆったりとした空間と時間を全住民が共有できる一体的な住環境が実現しているのである。隣接する浜寺公園は、時と共に変貌しつつ、多様なレクリエーションが楽しめる場として親しまれてきた。本公園の緑と楽しみが滲み出しているようなこの住環境は、これからも公園と連動して続いていく明るい未来を予感させる。地域の歴史に新たな息吹をもたらし未来へとつなぐ、優れたランドスケープデザインである。

講評:奈良県立大学地域創造学部地域創造学科 教授 井原 縁



ランドスケープマネジメント部門 特別賞

ランドスケープデザイン部門 奨励賞

大阪国際中学校高等学校

所在地 守口市松下町

事業主 学校法人大阪国際学園

設計者 株式会社安井建築設計事務所、

株式会社現代ランドスケープ(元・所員)

施工者 株式会社竹中工務店

本作品は、守口市における緑のネットワーク軸の中心である大枝公園に隣接して新設された中高一貫校のキャンパス計画である。広いグラウンドの東・北・西に回り込んで校舎群が配置されるが、特殊教室(音楽、美術・技術、調理、看護・保育実習棟など)を分棟として散りばめ、その周囲を学びのプログラムと連動した庭とすることで「公園を歩くかのように、ヒト・モノ・コトに出会う学びの場」を目指している点に特徴がある。

例えば日本文化を学ぶ和室には茶庭風の庭が、理科教室には雨水利用の ビオトープがあり、各庭は120種以上の植物や緩やかな園路で包まれている。 今後、「生徒と共に成熟する緑のキャンパス」として地域の緑とともに成熟して いくことが多いに期待される。

講評:京都芸術大学芸術学部歴史遺産学科 教授 仲隆裕

3



(写真:エスエス大阪)

morineki(大東市北条)

本物件は、老朽化した市営住宅の建替えを契機に、都市計画公園、道路等と一体的に開発され、都市公園・住宅・商業棟群が一体となった街並みを表出している。株式会社コーミンを中心に公園エリアの維持管理がなされるだけでなく、商業棟に入居の民間事業者によりマルシェや各種イベントが毎月開催されており、新たな地域交流の一助となっている。「もりねき未来会議」と称した会議体が公園部分のランドスケープの設計段階から組成され、旧・大東公民連携まちづくり事業株式会社(現・株式会社コーミン)がコーディネーターとなって実現されたものである。新しい管理運営方法もさることながら、開発そのものが新たな公民連携事業によって実現されたものであり、従来の評価の枠組みを超えるものとして、審査委員長特別賞とした。

講評:大阪府立大学名誉教授 農学博士 増田昇



所在地 大東市北条

活動者 大東市、株式会社コーミン

大利町自治会

地域の中心に位置する大利公園は、日々の親子連れや保育園の利用に 加え、地域の方々のラジオ体操や太極拳、グランドゴルフ等に活発に利用 されており、地域の貴重な交流の場となっている。また、この公園に隣接す る大利神社は地域のシンボルとして地域の方々に大切にされている様子 がその佇まいに表れている。本活動は、この公園と神社に繋がる「ふれあ いの散歩道」を中心に、平成20年より地域の自治会により10数年継続 している美しいまちづくり活動の一環である。美化緑化委員を中心に日曜 日を除く毎朝、公園中央の花壇、築山と南側花壇や遊具横のフラワーボッ クスに加え、散歩道沿いの花壇を対象に除草や水やりに加え、ごみ拾いが

また、月1回子供会による清掃活動も行われている他、住民の協力で四 季折々の花が植えられ、地域の方々の目を楽しませている。ここで咲いた 草花は地域の希望者に切り花として提供されるばかりでなく、地域のお年 寄りの集まりや老人介護施設にも提供されるとともに協力を頂いている市 役所にも提供されている。この公園では、四季折々にチューリップアートの 集いやふれあい盆踊り大会などのイベントが開催され、今年は釜戸ベン チを利用した防災訓練も予定されている。これらの空間が住民参画のもと で長年良好に運営管理されており、大阪府知事賞に値すると評価した。

講評:大阪府立大学名誉教授 増田昇











ランドスケープマネジメント部門

花さかばあさん

大阪市北区の個人的な活動であるが、ゴミの山であった街の一角を美し く保つために花壇を長年に渡って維持されてきた取り組みである。中学校 横の空地に長年放置されている不法投棄、所有者が見つからず、仕方なく 個人の費用で廃棄物を処分。その後不法投棄が起きないように自ら花壇を 作り始める。苗は所属されている北区バラの会さんから提供を受け、以来





5



講評:株式会社 庭樹園 代表取締役 當内 匡

所在地 大阪市北区長柄東

活動者 花さかばあさん(森正江)

広くそのような取り組みが地域で展開することを祈念いたします。

15年季節の花を植え替え維持管理されている。地域の方々に心地よい環

境を提供され続けているご尽力に敬意を表するとともに、支援者が集まり

所在地 寝屋川市大利町 活動者 大利町自治会

大阪府内における、みどりの景観づくり及び活動を実施 している府民、団体、企業、市町村など

応募数

1. ランドスケープデザイン部門 26件 2. ランドスケープマネジメント部門 スケジュール

募 集: 令和5年5月17日(水)~7月19日(水)

第一次審査:令和5年8月25日金

第二次審査:令和5年9月5日(火)、令和5年9月8日(金)

表 彰 式:令和5年12月13日(水)

審杳方法

みどりのまちづくり審査委員会により、応募書類による書類審査(一次審査)、 現地審査(二次審査)により選考。

審查委員

增田 昇(大阪府立大学 名誉教授) 匡(㈱庭樹園 代表取締役)

弘本由香里(大阪ガスネットワーク㈱事業基盤部エネルギー文化研究所 特任研究員)

隆裕(京都芸術大学芸術学部歴史遺産学科 教授) 井原 緣(奈良県立大学地域創造学部地域創造学科 教授)

高木 悠里(大阪公立大学大学院工学研究科都市系専攻 講師)

表彰式・講評会

開催日時:令和5年12月13日(水) 14:00~17:00

所:花博記念ホール

行:表彰式、総評及び作品発表、各作品講評及び意見交換会

《表彰式•作品発表》









《意見交換会》

ランドスケープデザイン部門受賞作品を対象に、審査委員と受賞者の意見 交換が行われた。

「作品のゴール設定と地歴の読み解き方」について、まちの品格の継承と そのためのランドスケープの連続化、地域に愛されることを目標にした地域 魅力の再発見と最大化、災害に強いランドスケープの視点重視などの意見 が交わされた。さらに土地が持つ自然環境の特性を活かした新たな地歴づ くり、建物の機能から接点づくりに着目したランドスケープの追求など、それ ぞれの作品の個性を反映した意見が交わされた。

また「ランドスケープデザインを考える時の新たな視点」として、人の流れ も繋ぐという発想の導入、建築との対話の重視(建築やランドスケープの境 界をシームレスに繋ぐ)、都市とみどりのあり方や価値づけの再定義、世界に 向けたPR、などの意見があった。





《審査委員長のまとめ》

さいごに審査委員長から、意見交換会等を通し、土木行 政・建築行政・造園行政ではできないプラットホーム型の空 間論あるいはデザイン論がランドスケープデザインであるこ とが再確認されたとし、この賞が見えない線を無くす取り組 みとして価値があり発展してほしいとの希望が述べられた。

また、事業主・設計者・施工者・管理者の志が揃うことで優 良なランドスケープ作品となる。この賞の最終目標像は、デ ザイン部門、マネジメント部門という境界がなくなり、単にラ ンドスケープ賞という形に発展していくことを賞の展望とし て述べられた。



6